翫物商「Ganbutsu-sho」とは現在の玩具・人形業界の事です。

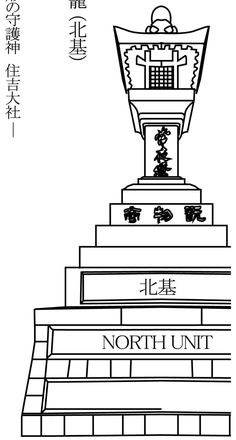
江戸時代 宝暦 12 年（1762 年）より業界の発展・結束と、全世界の子供たちの健やかな成長を祈願しこの一対の常夜石燈籠を寄進し現在も守り続けています。

翫物商「Ganbutsu-sho」＝the toy & traditional doll industries

Donated by the toy and traditional doll industries in Japan of 260 years ago and still being maintained to this date

翫物商住吉常夜石燈籠（北基）

―玩具と人形の守護神 住吉大社―



翫物商とは、現在の玩具や人形にあたる江戸時代の「おもちゃ」を取り扱った業者のことで、当時は繊細（せんさい）工の人形や木彫りの玩具などの製作流通や販売に関わりました。

「天下の台所」として栄えた江戸時代の大阪（大坂）は、翫物（玩具・人形）の中心地でした。京都からは人形の顔や西陣織の雛着物などが大阪に運びこまれ大阪では雛飾りなどの玩具を全国に出荷し、また、全国の玩具・人形も大阪に入荷されて賑わいました。そして、その流通を支えたのは海運でした。

住吉大社は古くから航海安全の信仰を集めていましたが、近世には北前廻船、菱垣廻船などの海上輸送が盛んになり、それらの海運業者や船荷の商人たちが祈願して石燈籠を相次いで寄進しました。現在も境内には大小合わせて六百基を超える石燈籠が林立しています。

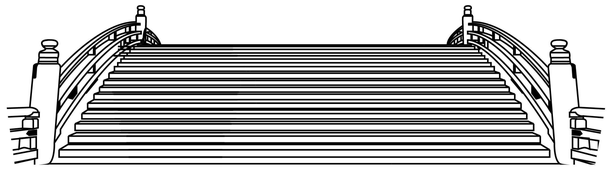
江戸時代の翫物商は、住吉大社に海運守護を祈願し、「翫物商住吉講」を結成しました。結成年代は不詳ですが、宝暦五年（一七五五）には活動が記録され、宝暦十二年（一七六二）には初めて住吉大社に石燈籠を建立しました。以後、玩具・人形商たちの信仰の中心となり、商品の海上安全ばかりではなく、業界の安全と繁栄を祈願してきました。他業種が栄枯盛衰するのなか、翫物商の伝統は永続し、その後も石燈籠は、文化五年（一八〇八）、明治十五年（一八八二）、昭和三年（一九二八）、昭和三六年（一九六一）、平成三年（一九九一）の五次にわたり改修工事が重ねられてきました。現在においても、日本全国の玩具・人形関係者にとって崇敬され、毎年十一月には定例の参拝と総会を実施し、国内すべての玩具・人形業界の繁栄と発展を祈願しています。

令和の新しい御代を喜かんと第六次改修工事を竣功しました。令和の御大典を奉祝するとともに、翫物商常夜石燈籠建立二百六十年を記念し、これを顕彰し永く後世に伝えるまいります。

令和二年十一月二十日　改修工事竣功

大阪玩具・人形住吉講





←この QR コードで石燈籠の説明と歴史が閲覧できます。

←Please click this QR CODE for browsing the history and explanation regarding the Standing Stone Lantern.

翫物商「Ganbutsu-sho」とは現在の玩具・人形業界の事です。

江戸時代 宝暦 12 年（1762 年）より業界の発展・結束と、全世界の子供たちの健やかな成長を祈願しこの一対の常夜石燈籠を寄進し現在も守り続けています。

翫物商「Ganbutsu-sho」＝the toy & traditional doll industries

Donated by the toy and traditional doll industries in Japan of 260 years ago and still being maintained to this date

翫物商住吉常夜石燈籠（南基）

―翫物商と石燈籠のあゆみ―

江戸時代

宝暦（一七六二）石燈籠寄進

江戸と上方（関西）の問取引は和船による海上輸送であり、雛人形・玩具の問屋業者は海路の安全を祈願するため、住吉大社を崇敬して「住吉講」を結成。

大阪の業者の発議により東西同業者が力を合わせ石燈籠を献納。

文化（一八〇八）第一次改修工事

住吉大社の文化度造営（遷宮）にあわせ、石燈籠の修年にある劣化、地震や台風による損傷を修理、再建には、大坂・京都の同業者が中心となり修繕改修工事 を実施。

近代

明治 六年（一八七三）明治維新

明治六年一月四日、太陰暦は改暦（太陽暦導入）にともない五節句（八日・上巳・端午・七夕・重陽）を廃止し、新たに祝日を定める布告を行なった。

その後、習俗打破の風潮や社会変化にともう節句飾りなども衰退、新しい時代に対応するため翫物商は同業組合「大阪翫物会」を組織。

明治 二五年（一八八二）第二次改修工事

大阪府の大阪堺街商工業振興法を受け、同業組合「大阪玩具同業会」結成、同時に組合員を中心に「大阪住吉講」結成、同年十一月、東京や京都の同業者に呼び掛け大規模な改修工事が竣功。

昭和三六年（一九六一）第四次改修工事

住吉大社式年遷宮の年であり、建立の宝暦十二年から二百年目を記念して、住吉大社翫物商石燈籠保存会（会長伊藤勝）を結成、改修工事を実施。業界紙「玩具商報」（現「月刊トイジャーナル」）紙上に紹介され、全国業界人の話題となる。

平成 三年（一九九一）第五次改修工事

平成の御大典を奉祝、建立二百三十年を記念して、大阪玩具・人形住吉講が発起人となり東京・大阪の玩具人形業界と呼び掛け改修工事を実施。日本は世界有数の玩具生産国であり雑貨貿易に占める度合いも大きくなっていたため、伝統の継承がなく注目を集めた。

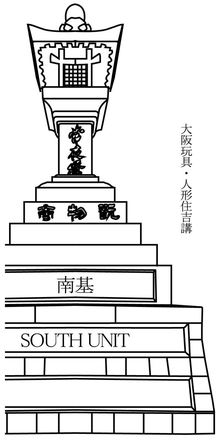
平成 二三年（二〇〇一）記念誌刊行

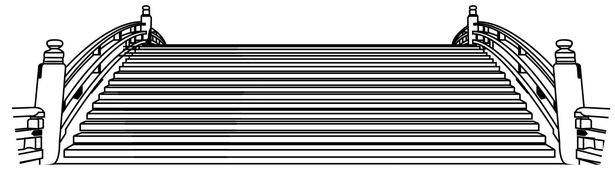
建立二百四十年を記念して、同年十一月九日、大阪玩具・人形住吉講より記念誌『翫物商常夜石燈籠 二百四十年史』刊行。

令和 二年（二〇二〇）第六次改修工事

令和の御大典を奉祝、創建二百六十年を記念して改修工事を実施。大阪玩具・人形住吉講・浪花大阪府・玩具人形問屋協同組合・大阪人物百間屋協同組合・大阪府玩具問屋協同組合・大阪府人形問屋協同組合・大阪玩具事業協同組合、一般社団法人日本玩具協会、東京玩具人形問屋協同組合、関西節句人形工業協同組合、大阪玩具事業協同組合、一般社団法人日本プラモデル工業協同組合が中心となり、大阪玩具人形業界の発展・世界中の全ての子供達に、健やかな成長と幸せを願い、私達玩具人形業界の団結を祈願し続けます。

大阪玩具・人形住吉講







←この QR コードで石燈籠の説明と歴史が閲覧できます。

←Please click this QR CODE for browsing the history and explanation regarding the Standing Stone Lantern.

令和２年（2020 年）11 月 20 日　大阪府玩・具人形住吉講